

インド太平洋時代の国際連携と日本

—RCEP、CPTPP、FOIP

神奈川大学法学部教授
おお庭ば三枝

- *インド太平洋という地域概念の形成理由
- *リベラル国際秩序とは何か
- *冷戦終結後にもたらされた変化
- *リベラル国際秩序の中のアジア
- *2000年代に動揺するリベラル国際秩序
- *アジアでは地域連携の動きが加速
- *二つのメガFTAはどのようにして生まれたか
- *CPTPP成立の経緯
- *インドはなぜRCEPから離脱したのか
- *メガFTAが重視される理由



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、2年ちよつとぶりになります。大庭先生においでいただきました。簡単にご紹介いたしますと、1968年のお生まれで、国際基督教大学から東大の大学院を出られ、その後しばらく東京理科大で教鞭を取っておられました。現在は昨年の4月から神奈川大学に移られております。ASEAN、それから東アジアも含めたアジア全般の国際関係について、たいへん造詣の深い先生でいらっしゃいます。

コロナ騒ぎの影響もありましてか、こういったアジアの最新の動きについてはメディア等ではなかなか詳しいことを知ることができない状況であります。中国の動き、それからASEAN各国の今抱えている問題、その両方にやはり

日本がいちばん関わりが深いわけで、日本のこれからについてもたいへん示唆に富んだお話が伺えると思います。

それでは大庭先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

インド太平洋という地域概念の形成理由

大庭 2年ぶりになります、神奈川大学の大家庭です。2年前は、今ご紹介にあずかりましたように神奈川大学ではなくて東京理科大学にいたのですけれども、ちょうどコロナがいちばん激しくて、大学ごとにオンライン授業に移行するというタイミングだった2020年4月に神奈川大学の法学部に移籍いたしました。日々楽しく過ごしていますが、この2年間、コロナだ